

(様式3)

自己評価結果票 (第1ユニット ほほえみ)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.理念に基づく運営				
1.理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	琴音憲章を理念としている。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	利用者のより良い生活づくりに向け、日々取り組んでいる。		日々のケアの中で自ずと理念の実践にむけた努力ができているが、随時理念を言葉に出し、再確認していくことも必要
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	日々のケアを通し、家族にはある程度ご理解をいただいていると感じるが、地域の理解を得られるような取り組みはまだ少ない。 (閉ざされた空間になりがちである)		まずはご家族のご理解、さらに地域の方々に理解をしていただけるような取り組みの検討が必要。
2.地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	隣接の施設(ケアハウス・特養)の利用者や職員との交流は大事にしているが、職員不足もあり、十分に行えているとは言えない。		近隣の施設の方とは日常的な付き合いができれば良いと思う。職員間の協力も含め検討したい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会、老人会にははいつておらず、場所柄もあり、地域の住民の方との交流は少ない。 稲美町主催の敬老会には毎年参加している。		利用者・職員の負担にならない範囲で、地域住民の方が気軽に立ち寄れるような行事(お茶会)などの実施を検討する。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	実習生や学生アルバイトの受け入れを行い、高齢者とのかかわりを学ぶ場として役立っているが、積極的には取り組んでいない。		今後の課題である。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	少しずつではあるが、改善に向けての取り組みを行っている。		一人でも多くの職員で自己評価を行い、客観的に自分たちのケアを見直し、また第三者評価での改善課題については前向きに取り組んでいきたい。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在運営推進会議は行えていない。		会議の内容については検討が必要。
9	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	取り組めていない。		今後の課題として考える。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	入職時の資料配布程度で、研修等の学ぶ機会をつくっていない。		必要性に応じて学ぶ機会をつくっていく。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等の学ぶ機会を作っていないが、虐待防止については、職員一人ひとりが、しっかりと意識を持ち虐待防止に努めている。		学ぶ機会をつくっていく。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで いきたい項 目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	行っている。	
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	特に機会をつくっていないが、利用者からの不満・苦情に対しては都度、迅速に対応するようにしている。	
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	利用者の健康状態等については面会時に、緊急性がある場合は電話で報告・相談を行っている。金銭管理については、定期的に出納帳のコピーと領収書を送付し、報告するようにしている。	
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	不満・苦情があれば、都度、迅速に対応するようにしている。外部者へ表せる機会をつくっていない。	意見箱の設置等も考える
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	十分反映できているとは言えない。	運営者・管理者と話しあう機会を持つ。
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	限られた人員の中でも必要に応じて、職員の意見を取り入れながら、勤務調整を行っている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員のユニット替えは行っているが、少人数に抑え、利用者に影響がないようにしている。また普段からユニット間の交流を持っている。</p>		
5.人材の育成と支援				
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員不足もあり、十分な研修の機会がない。</p>		<p>職員の育成のためには、人材の確保と計画的な研修が必要。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>二市二町グループホーム協会に加入しており、定期的に交流する場はあるが、実際には参加できていない。</p>		<p>研修や交流の場に参加できるような環境づくりが必要。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>取り組めていない。</p>		<p>運営者と話す機会を持つことが必要</p>
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>取り組めていない。</p>		<p>運営者と話す機会を持つことが必要</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>はっきりとご自分の意見を言える利用者は少ないが、何度か本人に会い、話をしたり、実際に施設に足を運んでいただき少しでも馴染んでいただくことで、安心感を持ってもらい、また本人の気持ちを察するようにしている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>担当のケアマネージャーや利用されていたサービス事業者のスタッフを通して、また直接話を伺うことで、家族の気持ちを理解するように努力している。</p>	
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>努めている</p>	
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>事前に短時間でも施設に来て過ごしていただき雰囲気に馴染んでいただく機会をつくったり、スタッフが会いに行き顔馴染みになっていただくようにしている。</p>	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>共に生活している(同じ目線で)という意識を持って接している。利用者から学ぶことも多い。ただ忙しい業務の中で実践できていないこともある。</p>	<p>一緒に生活、一緒に楽しむということを再認識したい。気持ちに余裕を持つことができるような環境づくりも必要。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで いきたい項 目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	利用者を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に利用者を支えていく関係を築いている	ご家族とは都度相談を行い、一緒に利用者を支えていただいている。		面会の少ないご家族もあるので、一緒に利用者を支えていく必要性をご理解いただき、協力を求めていく。
29	利用者と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの利用者や家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	これまでの利用者や家族との関係を大切に、年に何度か家族と一緒に参加していただける行事(日帰り旅行・誕生日会・お食事会等)を計画し、無理なく一緒に時間を過ごしていただけるようにしている。		今後も日常的にご家族と一緒に楽しめる機会を作っていく。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	誕生日外出や、買い物、その他の機会に昔の馴染みの場所に訪れたり、馴染みの人に会っていただくよう努めているが、利用者の体力的なこともあり、機会は少ない。できるだけ会話の中で、馴染みの人や場所の話題を出すことで関係が途切れないように努めている。		ご家族の協力もお願いし、馴染みの人、場所との関係を継続したい(手紙・電話の活用も)。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	多少の喧嘩は見守ったり、仲のよい利用者同士で入浴を楽しんで頂いたり、利用者同士の関わりを大切にしている。どうしても孤立してしまう利用者に対しては少しでも他の利用者との関係を持つように支援している。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	必要であればできる範囲でおこなっている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで いきたい項 目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1.一人ひとりの把握			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>ご自分の思いをはっきり出せない方もおられるが、できるだけ気持ちを察し、一人ひとりに応じた生活ができるように努めている。</p>	
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>ご家族の協力も得ながら、把握に努め、一人ひとりに応じた支援を行っている。</p>	
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>それぞれの方の生活習慣や身体状況等を把握し、申し送りや記録を使い、職員間で情報を共有するようにしている。</p>	
2.より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>センター方式の一部を利用し、利用者や家族の思いを大事にしたケアに努めているが、計画作成には至っていない。</p>	<p>介護計画を作成していく。</p>
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>利用者の状態の変化があった場合は都度家族に連絡・相談を行い対応しているが、介護計画の作成には至っていない。</p>	<p>介護計画を作成していく。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録には記入し、情報共有が行えているが、介護計画の作成には至っていない。		介護計画を作成していく。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	できるだけ柔軟な対応を行っている。		
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	定期的になぎり絵や朗読会などのボランティアさんに来てもらっている。		地域の資源との協働を図っていきたい
41	他のサービスの活用支援 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	今のところ必要性がない。		
42	地域包括支援センターとの協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	今のところ必要性がない		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで いきたい項 目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	家族の意向を大切にし、適切な受診等の支援を行っている。	
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	精神科のDrに必要な応じて相談できる。	
45	<p>看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	一週間に一度主治医である大西整形の看護師の訪問あり、健康チェックを行っている。その他の時間も必要に応じて相談できる。	日曜、祭日や午後休診の際に困ることがある。24時間体制で相談ができる看護師が確保できればと思う。
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	随時相談を行っている。	
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	看取りはまだ経験ないが、重度化に関しては必要に応じ、家族と相談を行っている。	
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	職員間や家族とは都度、相談を行っているが、医療スタッフを含めてチームとしての支援には取り組めていない。	今後の課題として考える。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで いきたい項 目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>利用者が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	行っている。		
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	個人情報の取り扱いには気をつけている。日ごろの言葉掛けや対応についても注意している。		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	個々にあわせた話し方で、利用者の思いや希望を表せうように働きかけている。		もっと利用者の自己決定の場面を増やす
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	起床時間や食事時間など、できるだけ希望に添えるように支援している。		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>				
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	その人らしい身だしなみができるように支援している。理容についてはご本人の希望があれば家族の同行をお願いしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	普段の食事は業者に委託しているが、盛り付けは出来る限り、利用者と一緒にしている。		月に2回程度手作りの日をつくり、利用者と一緒に食事作りを楽しんでいる。 業務の都合で片付けなど職員で行ってしまっている部分があるのでできるだけ一緒に行っていく。
55	利用者の嗜好の支援 利用者が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者の嗜好を把握し、苦手なメニューのときは別メニューを用意し、また飲み物もお好きなものを飲んでいただけるように努めている。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの排泄パターンを把握し、それぞれの方にあっただ対応(トイレ誘導、パット交換等)を行い、出来るだけ失禁を減らす努力をしている。ライフチャートに記入することで、情報共有もできている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの希望にあわせたいと考えて努力しているが、希望があっても職員の少ない時間帯の入浴は実施できないのが現状である。ただ入浴を好まない方に関しては、無理強いせず、入りたくなるような声かけで、入浴を楽しんでいただくよう努力している。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	できるだけ日中は活動的に過ごしていただき、夜間の良眠につなげて行きたいが、それぞれの睡眠パターンや生活習慣、希望もあるので、健康状態に気をつけながら個々に応じた支援を行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備や洗濯、趣味など、個々に合わせた役割や楽しみを持ってもらえるように支援している。		まだ十分ではないので、趣味や興味のあることを把握し、生活に生きがいを持ってもらえるように支援したい。


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、利用者がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理ができる方は勿論、管理ができなくても、お金を持つことで安心感の持てる利用者についてはご自身で持っていてほしい。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	できるだけ対応したいと考え、できる範囲では対応しているが、付き添いが必要な場合が多く、職員の都合で希望時に外出できない場合もある。		ご家族の協力も得たい。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	誕生日外出や日帰り旅行など計画し、実施しているが、利用者の方の体力的なことや、職員の人員不足もあり、回数は少ない。		ご家族の協力も得ながら、続けていきたい。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に利用者自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば行っている。		職員が家族と電話連絡する際なども利用していきたい。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、利用者の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問の時間の制限はなく、いつでも来ていただけるようにしている。必要あれば、家族でゆっくり過ごしていただけるようにしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしない方向でケアに取り組んでいる。向精神薬の服用も基本的には行わない。危険がある場合には、家族・スタッフ間で相談、共通理解のもと、できるだけ危険を回避できるよう環境を整えたり、家族にも協力を得るなどして対応している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで いきたい項 目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は施錠の弊害は理解できており、基本的には施錠は行わない。見守りが十分にできないときなど、状況によっては一時的に施錠をすることもある。		
67	利用者の安全確認 利用者のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員間で連携を取りながら、所在・様子を把握し、利用者の安全に努めている。夜間は職員一人であるが、できる範囲で利用者の安全に配慮を行っている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状態と状況を考慮し、危険が伴う物品については、施設で保管している。ある程度管理が可能な方については、家族の了解のもとに所持してもらっている。		認知症が進むに連れて、部屋が殺風景にならないように、家族とも相談し、対応を考えていきたい。
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	日々の職員間の連携、声掛けの他、会議等で話し合ったり、随時研修を通して事故防止に取り組んでいる。		
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	随時研修を行っているが、勤務上、すべての職員が研修に参加することは難しい。		外部の研修への個人的な参加など自己啓発を促すとともに、施設内での研修の充実も必要。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的な避難訓練を行い、隣の施設との協力体制も整えている。		訓練の回数を増やし、またマニュアルをつくることで緊急時に誰もが対応できるようにする。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	<p>リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている</p>	必要に応じ、家族に説明、理解を得て、最善策をとれるように努力している	
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>	毎日バイタルチェックを行い、また表情・行動等の様子観察で異常があればお互いに情報を共有し、注意をするようにしている。必要であれば家族に連絡し、受診や主治医への相談を行っている。	
74	<p>服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	一覧表があり確認できるようになっているが、薬の種類も多く、効力が類似している薬があったり、状態によっての変更もあるので、全部を把握するのは難しい。	毎月の会議の時間にテスト形式で、それぞれの方の薬の把握に努めるようにしている。
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>	水分摂取量の把握や、牛乳やオリゴ糖、寒天の摂取、薬の調整など、個々に応じた排便コントロールに努めている。	運動の機会も多く取り入れたい
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>	毎食後は行えていないが、眠前には、一人ひとりの状態に応じ、緑茶での歯磨きなど工夫しながら行っている。	
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	一人ひとりの摂取量を考えた食事の提供が出来ている。食事や水分が進まない方には栄養補助食品やお好きなもので、また咽の多いかたには、とろみやゼリー状にしてできるだけ摂取してもらえるよう努めている。また1日の摂取量をライフチャートに記入し、把握するようにしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで いきたい項 目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肺炎、MRSA、ノロウイルス等)	特養と共同で感染症対策委員会を設置。一部のマニュアルはできている。		引き続き、マニュアル作りを進めていく。また琴音内で予防策の話し合いも行っていく。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食品の購入についてはできるだけ新鮮なものを購入するようにしている。また琴音独自の賞味期限や、調理器具の消毒方法などきめている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	基本的には鍵を掛けず、自由に出入りできるようにしている。また和風づくりで馴染みのある建物であると思うが、特養の建物の裏側にあるため、外部の方にはわかりにくい。		地域住民の方が気軽に出入りできるようにするためには工夫が必要。ただ利用者にとっては「家」なので、どこまで開放的にするかは十分な検討が必要。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは開放的でくつろげるスペースとなっているが、生活感に欠ける部分もある。リビングからは庭の草木を見ることが出来、季節感を感じてもらえるようになっているが、庭の手入れまでは十分に行えていない。		利用者の生活環境にまで心配りができるように、職員が気持ちにゆとりを持ってケアにあたるような職員にとっての環境づくりも必要
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ひだまりコーナー(庭の草木や竹林が見える開放的なスペース)があり、時には一人で、また家族と過ごしていただいている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にできるだけ馴染みのものを持参して下さるようお願いしている。		認知症が進み、危険が伴ってきた際の対応が課題
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気扇やエアコンを適宜使用し、職員間で連携を取りながら、利用者にとって健康で快適な空間となるように努めている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	テーブルや椅子、ベッドの高さ等に配慮している。また居室のカーペットの有無、ポータブルトイレの設置など一人ひとりの身体機能にあった対応に心がけている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	大きい文字の日めくりカレンダーの設置、トイレの場所の表示など行っている。居室には表札以外に飾り棚があり、ご自分の馴染みのものを飾っていただき、部屋がわかりやすいようにしている。		職員側の声掛けで行ってしまっていることも多く、もう少し利用者の主体性を大切にケア（見守りから）を行えるように努力していく。
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダがあり、日光浴をされる方もあるが、十分に活用できていない。		利用者の体力的なこともあり外出の機会が減っているので、一緒に花や野菜を育てたり、天気の良い日にはお茶を飲みながら日向ぼっこをしたりと、今後はベランダを活用していきたい。

( 部分は第三者評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目 (第1ユニット ほほえみ)		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

共に生活している(日常の業務に職員が左右されず、なるべく利用者と一緒に過ごせる時間を持つ)という意識を持ち、安全に楽しくを心がけ、ご利用者、そしてご家族のご希望も大切にケアしている。

その人らしさを大切にしたケアを心がけている(精神的な症状が激しい方に対しても、精神薬の使用はできるだけ行わず、その方の思いを組んで落ち着いて生活できるように対応している。否定的な言葉は使わず、行動も制限しないようにしている。ADLの低下が著しい方についても、食事、歩行などできるだけその方の力を使っていただけの援助に努めている)。

ご利用者はもちろん、ご家族、その他の訪問者、そして職員にとっても居心地の良い場所となるように努力している。